

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 「現場に集まり声を上げることが大事」



町民集会で「ならんどー！頑張ろう！」と氣勢を上げる参加者



「米軍に本部の港を使わせない！」緊急町民集会在8日、本部町内で同実行委員会の主催で開催され、町内外から180人が集まりました。9月17日に米海兵隊が「伊江島での訓練に必要」と本部港を使用すると突然通知してきた際、市民と全港湾の労働者、合計約120人が10時間も港の入り口で座り込みを続けました。そして、海兵隊に港の使用を諦めさせ撤退させた闘いがありました。米軍を追い返したあと集まった市民らはカチャーシーを踊って喜びました。しかし、「県の自衛隊を無視して再度、本部港を使用する可能性がある」と、緊急の町民集会在開かれたものです。

集会上で上間一弘実行委員長が、本部町民が海上自衛隊のP3C対潜哨戒機送信所基地計画を1987年から20年にも及ぶ闘いで断念させた経緯に触れ、「皆が現場に集まって『ならんどー！』と声を上げることが大事。子や孫のために、平和な本部町を守るため頑張ろう」と訴えると大きな拍手に包まれ、全員で「本部港を米軍に使わせない」決意を新たにしました。

### 本部港を米軍に使わせない！ 本部町の緊急町民大会に180人

## 様変わりした工事現場を前に怒り 大阪・民商事務局OBらが平和丸から視察



### 「埋め立てた土砂は数%」

平和丸の仲本興真船長が「埋め立ての現状は全体量からみれば数%程度です。これからでも中止させることはできます」と説明しました。

大阪商工団体連合会（大商連）傘下の元民商事務局長など有志9人が15日、辺野古漁港から抗議船・平和丸に乗船、新基地建設現場を視察しました。同メンバーは4年前にも現地を視察しており、辺野古の海が護岸で囲われて様変わりした現場を確認。参加者から「ひどい！」と憤りの声が上がりました。ウミガメが護岸でさえぎられ、さまよっている姿も発見、自然破壊の実態にも怒りを募らせていました。

## 海勢頭豊「音楽の夕べ」開く

やんばる統一連は11日、「ストップ辺野古新基地建設！」と題し、シンガーソングライター海勢頭豊さんを招き「音楽の夕べ」を開催、40人が参加。海勢頭さんは、NHKのみんなの歌「さとうきびの歌」など6曲を、語りを交えて歌い上げ、大きな拍手を受けました。



## デニー知事、「辺野古反対」で2度目の訪米へ

沖繩地元紙によると、デニー知事は14日（日本時間15日）、カリフォルニア州のスタンフォード大学で講演。知事は「沖繩の大きな負担となっている米軍基地を運用する米国も基地問題の当事者。米市民が政府や議員に問題解決を訴えることが重要」と訴えました。15日は有識者と面談後、ワシントンDCに移動、米政府、米連邦議会関係者と面談。日本時間20日に帰国の予定です。

### 知事、米大学で訴え

「県民の望まない基地は米国へ移してほしい」玉城デニー知事は14日、米首都ワシントンなどを訪問するため、那覇空港を出発しました。昨年11月に続く2度目の訪米です。空港での出発激励集会には、赤嶺政賢衆院議員はじめ「オール沖繩」の国会議員、県市町村議員、市民団体、支援者など多くの県民がかかけつけました。デニー知事は、「県民の望まない基地は、米国に移してほしい、と明確に主張します」と決意を表明しました。

### 「県民の望まない基地は米国へ移してほしい」



那覇空港での知事の出発激励集会に集まった議員や県民（上写真）と挨拶するデニー知事（右）

